

京セラ株式会社知的財産部門における生成 AI の活用

Felo AI

京セラ株式会社の知的財産部門における生成AI活用



概要

京セラ株式会社は、全社的なデジタルトランスフォーメーション（DX）の一環として、生成 AI を含む各種 AI 技術の積極的な導入を推進しています [1 3 40](#)。知的財産部門においても、この流れは例外ではなく、業務効率化と戦略的高度化を目指した生成 AI の活用が模索されていると考えられます。本レポートでは、京セラの知的財産部門における生成 AI の適用状況、グローバル展開の可能性、そして今後の導入・活用拡大に関する予測を、技術動向や組織的インパクトを含めて分析します。

京セラは、生成 AI の活用にあたり、情報漏洩リスクや知的財産権侵害といった懸念事項に対応するため、外部ネットワークから隔離した社内クラウド環境での利用を推進し、利用ガイドラインの策定や従業員教育を実施しています [1 36 40](#)。当初は事務部門での業務効率化から着手し、今後は社内情報を学習させた上で営業・製造部門へと展開する計画が示

されており [36 40 42](#)、知的財産部門もこの方針に沿って活用が進められると推測されます。

現時点では、知的財産部門における具体的な生成 AI の活用事例は限定的ですが、特許出願・権利化支援、先行技術調査、IP ランドスケープ作成、契約書レビューなど、幅広い業務での応用が期待されます。グローバルな知財管理体制を有する京セラにとって、生成 AI は多言語対応や各国法制度への対応といった面でも貢献する可能性があります [7](#)。

今後の展望としては、より高度な大規模言語モデル（LLM）や AI エージェントの登場により、知財業務のさらなる自動化・高度化が進むと予測されます。これに伴い、知財専門家の役割も変化し、AI を使いこなすための新たなスキルセットが求められるでしょう。京セラは、これらの技術動向を注視しつつ、セキュリティとガバナンスを確保しながら、段階的に生成 AI の活用を拡大していくものと考えられます。

詳細レポート

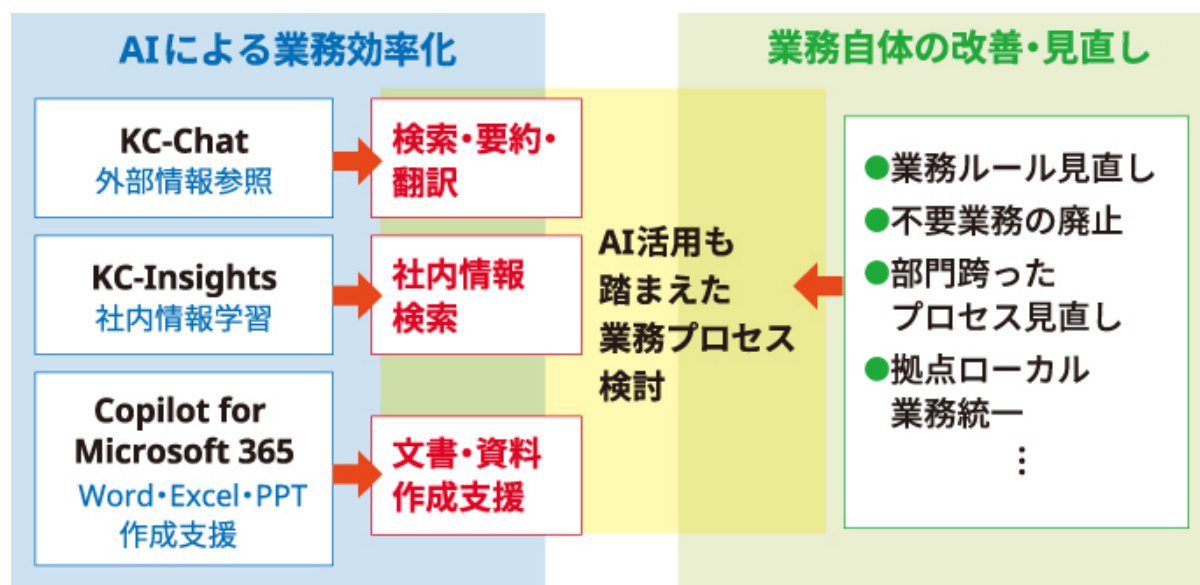
京セラにおける生成 AI 活用の基本方針とガバナンス

京セラは、企業競争力の強化と新たな社会ニーズへの対応を目指し、全社的にデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進しています [3 40 42](#)。この中で、生成 AI をはじめとする AI 技術は、業務効率や生産性の向上、イノベーション促進を実現するための重要なツールとして位置づけられています [1](#)。

全社的な DX 推進と AI 活用 京セラは、DX を単なるデジタル技術の導入に留めず、企業文化や従業員の意識改革を伴うコーポレートトランスフォーメーション（CX）やビジネストランスフォーメーション（BX）へとつなげることを目指しています [3 40 42](#)。AI の活用は、事務作業の効率化から始まり、将来的には社内情報を学習させることで営業部門や製造部門の業務にも展開される計画です [36 40 42](#)。この方針は、知的財産部門における AI 活用にも適用されると考えられます。

情報セキュリティとリスク管理 生成 AI の利用には、秘密情報や個人情報の入力による情報漏洩、誤情報の生成、知的財産権侵害、倫理的問題などのリスクが伴います [1](#)。京セラはこれらのリスクを認識し、対策を講じています。具体的には、「情報セキュリティ基本方針」および京セラグループ統一の「情報セキュリティ管理方針」を定め、情報資産の適切な利用・管理とリスク予防・軽減に継続的に取り組んでいます [1](#)。

生成 AI 利用ガイドラインと倫理的配慮 生成 AI の適正な利用を確保するため、京セラはガバナンス体制の構築を検討し、利用ガイドラインを策定しています [1 22 36](#)。このガイドラインでは、法的リスクや倫理上の問題にも配慮し、情報の外部流出リスクを回避するために、外部ネットワークから隔離された社内クローズド環境での生成 AI 利用を推進しています [1 36 40](#)。また、従業員への教育も実施し、AI 技術の適切な理解と利用を促しています [1](#)。



知的財産部門における生成 AI の活用状況と可能性

京セラの知的財産部門では、全社的な AI 活用推進の方針のもと、生成 AI の導入・活用が検討または一部開始されていると推測されます。以下に、主要な知財業務における具体的な活用状況と将来的な可能性を示します。

現状の取り組み: 京セラは、生成 AI の活用をまず事務部門での業務効率化から開始し、その後、社内情報を学習させて営業・製造部門へ展開する計画です [36 40 42](#)。知的財産部門においても、まずは定型的な事務作業や情報整理業務での活用が進められている可能性があります。また、京セラは 2015 年に IP 戦略推進部を立ち上げるなど、戦略的な知財活動を重視しており [2546](#)、生成 AI をこの戦略的活動の強化に役立てようとする動きがあると考えられます。

特許出願・権利化: 生成 AI は、発明提案書の作成支援、特許請求の範囲（クレーム）のドラフト作成、明細書の要約作成、さらには外国出願時の翻訳作業などで活用が期待されます [52849](#)。これにより、出願書類作成の効率化や質の向上が見込まれます。特に、過去の社内特許データや審査経過情報を学習させることで、より質の高い出願戦略の立案支援も可能になるでしょう。

先行技術調査: 先行技術調査は、特許性判断や無効資料調査において極めて重要な業務です。生成 AI は、キーワード抽出の高度化、検索クエリの自動生成、大量の文献からの関連性の高い文献のスクリーニング、調査結果の要約作成などを支援し、調査の網羅性と効率性を大幅に向上させる可能性があります [549](#)。京セラが過去の失敗事例を重要な資産と捉え、AI で分析効率化を目指していること [54](#) は、先行技術調査や発明発掘にも通じる考え方です。

特許クリアランス（FTO 調査）: 新製品・新技術の事業化に際して、他社特許権の侵害リスクを評価する特許クリアランス調査は不可欠です。生成 AI は、関連する特許文献の抽出、クレーム解釈の支援、侵害リスクの初期評価などを通じて、調査の迅速化と精度向上に貢献できます。

SDI（技術動向調査）: 特定の技術分野における最新の特許出願動向や競合他社の動きを継続的に監視する SDI 業務にお

いて、生成 AI は情報の自動収集、分類、要約、さらにはトレンド分析レポートの自動生成などに活用できます [49](#)。これにより、知財担当者はより戦略的な分析業務に注力できるようになります。

契約書レビュー: 知的財産関連の契約書（ライセンス契約、共同開発契約など）のレビューにおいて、生成 AI はリスクの高い条項の特定、標準契約との差異比較、修正案の提案などを支援し、法務・知財担当者の負担軽減とレビュー品質の向上に貢献する可能性があります [2137](#)。

発明発掘: 社内に蓄積された技術文書、研究開発データ、過去の特許情報などを生成 AI に学習させることで、新たな発明のシーズを発掘したり、既存技術の新たな用途を発見したりする支援が期待できます [4954](#)。また、研究者や技術者との対話形式でアイデア創出を促す「壁打ち」相手としても活用できる可能性があります [43](#)。

IP ランドスケープ: IP ランドスケープは、特許情報を分析・可視化し、経営戦略や研究開発戦略に活用する手法です。生成 AI は、大量の特許データの解析、競合他社の技術ポートフォリオ分析、技術トレンドの特定、特許マップの自動生成などを支援し、より迅速かつ精緻な IP ランドスケープの作成を可能にします [1345](#)。京セラは「知財戦略を事業戦略に組み込んでいくこと」をミッションとしており [43](#)、IP ランドスケープの初期段階での提供・評価を行っているため [45](#)、生成 AI の活用はこれらの活動をさらに強化するでしょう。

知財戦略策定・実行: 生成 AI による高度なデータ分析は、より客観的でデータドリブンな知財戦略の策定を支援します。市場動向、競合情報、自社技術ポートフォリオなどを統合的に分析し、重点出願分野の特定、ライセンス戦略の最適化、M&A ターゲットの選定などに活用できる可能性があります [43](#)。

グローバル展開における考慮事項

京セラは、「グローバル 5 極知財体制」を構築し、世界各地域での知的財産活動を推進しています [7](#)。知的財産部門における生成 AI の活用も、このグローバルな視点を取り入れることが重要です。

グローバル知財管理体制と生成 AI: 各地域拠点での知財業務（出願、調査、権利維持など）において、生成 AI を共通のプラットフォームとして活用することで、業務プロセスの標準化や情報共有の円滑化が期待できます。また、グローバルな知財ポートフォリオの統合的な分析や戦略立案にも貢献するでしょう。

各国法制度・言語への対応: 特許制度や関連法規は国によって異なります。生成 AI を活用する際には、各国の法制度に関する情報を学習させ、適切な対応ができるようにする必要があります。また、多言語対応能力は、特に翻訳業務や各国オフィスとのコミュニケーションにおいて大きなメリットとなります。

今後の導入・活用拡大に関する予測

京セラの知的財産部門における生成 AI の導入・活用は、今後さらに拡大していくと予測されます。その背景には、急速な技術進化と、それに対応しようとする組織の動きがあります。

技術的展望:

- **より高度な LLM の活用:** 知的財産分野の専門知識を深く学習し、より高度な法的判断や技術的理解、複雑な推論が可能な LLM が登場することで、特許性判断の補助、無効論理の構築支援、ライセンス交渉戦略の提案など、より高度な業務への適用が期待されます。
- **AI エージェントによる自律的な業務遂行:** 将来的には、特定の指示に基づいて自律的に先行技術調査を行い、報告書を作成したり、出願書類のドラフトを完成させたりする AI エージェントが登場する可能性があります [816](#)。
- **マルチモーダル AI の活用:** テキスト情報だけでなく、特許図面、化学構造式、実験データといった多様な形式の情報を統合的に理解・処理できるマルチモーダル AI の進化により、より包括的な分析や発明支援が可能になります。
- **エッジ AI の活用とセキュリティ:** 京セラドキュメントソリューションズがオフィス機器向け SoC に AI プロセッサを搭載する動き [6 23 41](#) に見られるように、機密性の高い知財情報を扱う上で、クラウドだけでなくデバイス上で AI 処理を行うエッジ AI の活用も進む可能性があります。これにより、セキュリティを強化しつつ、リアルタイムな処理が実現できます。

組織的インパクト:

- **業務プロセスの変革と効率化:** 生成 AI の導入は、従来の知財業務プロセスを根本から見直し、大幅な効率化と自動化をもたらす可能性があります。これにより、知財担当者はより創造的・戦略的な業務に時間を割けるようになります。
- **知財専門家人材の役割変化とスキルアップ:** 定型的な作業が AI に代替される一方で、AI が出力した結果を評価・判断し、最終的な意思決定を行う知財専門家の重要性は依然として高いままです。AI を効果的に活用するためのスキル（プロンプトエンジニアリング、AI 倫理、データ分析能力など）の習得が不可欠となります [3 12 40](#)。京セラは階層別・職種別の DX 人材育成に取り組んでおり [3 40 42](#)、知財部門においても同様の取り組みが求められるでしょう。
- **データドリブンな意思決定の浸透:** 生成 AI による客観的なデータ分析は、知財戦略や投資判断におけるデータドリブンな意思決定を促進します [56](#)。
- **イノベーション創出への貢献:** 発明発掘支援や IP ランドスケープ分析の高度化を通じて、新たな技術シーズの発見や事業機会の創出に貢献し、企業全体のイノベーションを加速させる可能性があります。

課題と戦略的対応:

- **継続的なセキュリティ対策とガバナンス強化:** 生成 AI の進化とともに新たなセキュリティリスクが出現する可能性があるため、継続的な対策とガバナンス体制の見直しが不可欠です [1](#)。社内クロード環境の維持・強化や、アクセス管理の徹底が求められます。
- **AI の判断の透明性と説明責任:** AI による分析結果や提案の根拠を理解し、説明できる体制を整えることが重要です。特に法的な判断が絡む業務においては、AI のブラックボックス化を避け、人間による最終確認と責任が不可欠です。

- **従業員の AI リテラシー向上と教育体制:** 全ての知財担当者が生成 AI を効果的かつ安全に利用できるよう、継続的な教育とトレーニングプログラムの提供が重要です [1 3 40](#)。
- **費用対効果の検証と段階的導入:** 生成 AI ツールの導入や運用にはコストがかかるため、費用対効果を慎重に検証し、スモールスタートからの段階的な導入が現実的です。

結論

京セラ株式会社の知的財産部門における生成 AI の活用は、全社的な DX 推進と軌を一にしており、情報セキュリティとガバナンスを重視した慎重かつ積極的なアプローチが取られていると推察されます。現時点では事務作業の効率化が先行している可能性がありますが、将来的には特許出願・権利化から IP ランドスケープ、知財戦略策定に至るまで、広範な業務での活用が期待されます。

技術の進化は、より高度な LLM や AI エージェントの登場を予感させ、知財業務のあり方を大きく変えるポテンシャルを秘めています。これに伴い、知財専門家には AI を使いこなす新たなスキルが求められ、組織としても継続的な人材育成とプロセス改革が不可欠となるでしょう。

京セラが「Top 100 グローバル・イノベーター」として評価され続けている背景には [2450](#)、強力な研究開発力とそれを支える知財戦略があります。生成 AI は、この強みをさらに強化し、イノベーション創出を加速させるための重要な鍵となり得ます。課題であるセキュリティ、倫理、コスト、人材育成といった点に適切に対処しつつ、戦略的に生成 AI の導入・活用を進めることで、京セラの知的財産部門は、事業貢献と企業価値向上において一層重要な役割を果たしていくものと期待されます。

1. [京セラ【6971】のリスク・方針－キタイシホン](#)
2. [Intellectual Property | KYOCERA](#)
3. [Promoting Digitalization | Sustainability – Kyocera](#)
4. [知的財産－京セラ](#)
5. [よろず知財戦略コンサルティング](#)
6. [Kyocera Taps Quadric AI Technology for Next-Gen Office ...](#)
7. [Intellectual Property Initiatives | Governance | Sustainability](#)
8. [日経クロステック NEXT 関西 2025 | セミナー一覧](#)
9. [京セラと筑波大学、共同研究により仮眠起床 AI システム ...](#)
10. [KYOCERA to Showcase Latest Innovations in AI, Autonomous ...](#)
11. [Real-world gen AI use cases from the world's leading ...](#)
12. [マッキンゼーのエキスパートが説く、AI・データ分析で成果を ...](#)
13. [京セラ株式会社（特許分析レポート・日本）](#)

14. [patent analytics Archives](#)
15. [Annual Silicon Valley Meeting 2025 – IP Counsel Café](#)
16. [【2025 東京】ネプコンジャパン/オートモーティブワールド ...](#)
17. [京セラドキュメントソリューションズ 冬のオープン ...](#)
18. [generative AI – Benelux Intelligence Community – BI Kring](#)
19. [The IP Beacon® | 2024 Year in Review – Haynes Boone](#)
20. [ESG が競争優位になる時代の知財を活かした経営 投資家が ...](#)
21. [Top 10+ Legal AI Use Cases & real-life examples in 2025](#)
22. [Promoting Digitalization | Sustainability – Kyocera](#)
23. [Kyocera Taps Quadric AI Technology for Next-Gen Office ...](#)
24. [Intellectual Property Initiatives | Governance | Sustainability](#)
25. [複数の事業部と連携する知財部門における活用 – SPEEDA](#)
26. [知的財産 – 京セラ](#)
27. [生成 AI とは何か？ – BUSINESS NETWORK](#)
28. [よろず知財戦略コンサルティング](#)
29. [京セラ、工場従業員の送迎に AI 活用。渋滞緩和や満足度向上を ...](#)
30. [Generative AI in Patent Applications and Preemptive Prior Art](#)
31. [Intellectual Property | KYOCERA](#)
32. [The IP Beacon® | 2024 Year in Review – Haynes Boone](#)
33. [Intellectual Property Protection | KYOCERA Document Solutions](#)
34. [Real-world gen AI use cases from the world's leading ...](#)
35. [課題解決事例 | セラミックパッケージ – 京セラ](#)
36. [デジタル化推進 | サステナビリティ – 京セラ](#)
37. [Top 10+ Legal AI Use Cases & real-life examples in 2025](#)
38. [京セラ 様の導入事例 – kintone – サイボウズ](#)
39. [ドコモの知的財産 | 企業情報](#)
40. [Promoting Digitalization | Sustainability | KYOCERA](#)
41. [Kyocera Taps Quadric AI Technology for Next-Gen Office Automation](#)
42. [デジタル化推進 | サステナビリティ | 京セラ](#)
43. [日経「知財経営ランキング」で 6 位の京セラ](#)
44. [Promoting Digitalization | Sustainability – Kyocera](#)
45. [Intellectual Property Initiatives | Governance | Sustainability](#)

46. [複数の事業部と連携する知財部門における活用 – SPEEDA](#)
47. [Generative AI: Navigating intellectual property – WIPO](#)
48. [Intellectual Property | KYOCERA](#)
49. [よろず知財戦略コンサルティング](#)
50. [「Top 100 グローバル・イノベーター 2025」を受賞](#)
51. [Kyocera Licenses Quadric's Chimera GPNPU AI Processor](#)
52. [京セラ、「知的財産サイト」を開設 – ZDNET Japan](#)
53. [Generative AI in Patent Applications and Preemptive Prior Art](#)
54. [京セラ「過去の失敗事例は大切な資産」、AIで価値高まる](#)
55. [AI/Tech Series: Generative AI, Intellectual Property and Best ...](#)
56. [全社員でのデータ活用が生成 AI でどう変わるのか？](#)
57. [Real-world gen AI use cases from the world's leading ...](#)
58. [デジタル化推進 | サステナビリティ – 京セラ](#)
59. [サステナブルな社会実現に向けて三菱電機が進める知財戦略とは](#)
60. [デジタル化推進 | サステナビリティ | 京セラ](#)
61. [京セラ、「知的財産サイト」を開設 – ZDNET Japan](#)